

女性医師支援センター便り



第11回女性医師支援セミナー開催報告

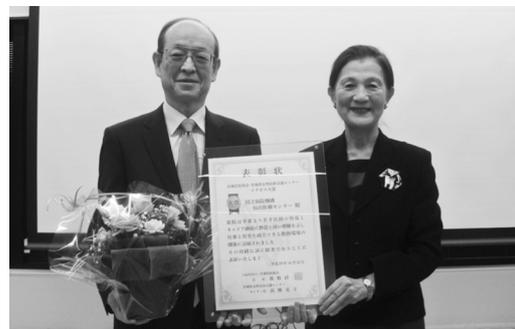
宮城県女性医師支援センター委員
中川記念ちか子女性クリニック院長
岡村 智佳子

平成29年11月12日（日）午後4時から宮城県医師会館2階大手町ホールにて第11回女性医師支援セミナーが開催されました。テーマは『広がれ！イクボス・イクメンの輪Ⅱ』でした。昨年のパートIを受け、さらにイクボスを推進していく活動の一環として、女性医師支援センター初のイクボス大賞・特別賞の表彰と受賞講演が行われました。大賞（団体）は国立病院機構仙台医療センター、特別賞（個人）は仙台赤十字病院副院長谷川原真吾先生が受賞されました。若手医師の育成とキャリア継続に熱意と深い理解を示し、仕事と育児を両立できる勤務環境を構築してきた功績は明らかで、これまでの当支援センターの活動への長年の貢献や現在一緒に勤務している先生方からの強い推薦もあり、今回の受賞となりました。

受賞講演では「女性が働きやすい病院を目指して」と題して仙台医療センター院長の橋本省先生からご講演いただきました。当病院はこれまでも女性の勤務環境の整備には定評がありましたが、現在女性医師の割合が28%に達しているとのこと。これは夜間保育、病後児保育等や短時間正規雇用制度などもいち早く実現してきた実績といえると思います。また、平成31年開院予定の新病院においても、保育所はもっとも日当たりのいい、土の園庭付きを設置し、管理階のレディースゾーン、隣接した乳児・病後児保育、授乳室などを設置し、女性医師支援を更に強力に推進しているということでした。新しい病院で勤務できる先生方がうらやましく思いました。

続いて特別賞を受賞した谷川原真吾先生が講演されました。仙台赤十字病院産婦人科に部長として赴任された平成14年頃は産婦人科医師の減少が顕在化してきた時代。これまで医師を確保するための取り組みについてお話いただきました。主治医制から主治医チーム制へ診療体制の見直し、院内保育所の整備と時短勤務を導入し、女性医師が子育て中もキャリアを継続できているとのことでした（現在常勤医10名中6名が女性医師でそのうち4名は子育て中）。近年さらに産婦人科医は減少しており、かつ20～30代では3分の2が女性医師である状況で産科医療を維持していくためにもフレキシブルな働き方を提供できるかが今後の課題であると結んでいました。

シンポジウムでは、七十七銀行人事部ダイバーシティ推進室長阿久津康子氏より「七十七銀行



橋本先生と高橋宮城県女性医師支援センター長



谷川原先生と高橋宮城県女性医師支援センター長

における女性活躍・ダイバーシティ推進の取組について」ご講演いただきました。特に女性の活躍推進に向けた取り組みにかかる「基本方針」については、キャリア形成・能力開発支援、仕事と家庭生活の両立支援、女性行員からの意見の積極的活用について具体的な工夫を解説していただき、企業と病院の違いはありますが、考え方の根本は同じであることが発見でした。全職員が意欲的に働ける職場環境の整備に継続的に取り組む姿勢は学ぶべきことが多い内容でした。

最後に「女性循環器内科医の働き方」と題してみやぎ県南中核病院循環器内科主任部長富岡智子先生が講演されました。先生は日本循環器学会の男女共同参画委員を務めアンケート調査なども行っている経験があるところ、あえて今回は調査結果を発表する講演スタイルではない、男女共同参画の活動に一石を投じる講演でした。循環器内科医として滅私奉公・粉骨砕身など、前時代的な価値観を是とし、朝から晩まで働いていた時代からモチベーションが保てなかった時代、働き方を変えなければ続けられないと痛感されてから今にいたるまでのご自分の道のお話しされました。若い医師がいかにモチベーションを落とさずに、自身が楽な気持ちで働き続けられるかを勤務形態も含めて議論することが必要ではないか、と会場に問いかけていらした言葉が印象的でした。

ディスカッションでは会場から「七十七銀行で女性管理職を11%まで引き上げるために能力のない女性が抜擢されることはないのか」という質問が出ました。責任あるポジションに引き上げれば立派に仕事をこなすようになるというのが、4人の演者のご意見でした。能力を見抜き、引き出す上司の力があることが前提であるとは思いつつ、演者全員が共通した意見をもっていらっしゃることが興味深かったです。男女の格差や子育てをするしない格差などさまざまな生き方の違いを超えて働き方の選択肢が多いことが男女共同参画の目指す方向なのではないかと考えるセミナーでした。閉会後はお子さんを託児所に預けて参加した先生方も交えて、情報交換会を行いました。今回のセミナーはより多くの若手医師に提供したい充実した内容でした。来年のイクボス大賞、特別賞を目指す病院、先生が増える社会風土の醸成が必要であると思います。ぜひエントリーをしていただけますよう、よろしくお願いいたします。

NO PHOTO

阿久津康子室長

NO PHOTO

富岡智子先生

NO PHOTO